

単元名:私の一年～イベント編～									
科目名	中国語	作成日	-		作成者	プロジェクトメンバー			
学年／年次	-	クラス人数	-		使用教科書名(対応)	-			
話題分野	行事	言語レベル	2		必要時間数	8時間			
I 単元目標									
親や地域の人の協力を得ながら中国に由来している日本の行事とその祝い方などについて調べ、プレゼンテーションのための資料を作って、中国の高校生との交流会で、日中の行事について紹介しあうことができる。				言語	文化	グローバル社会	学習者	教室外	他教科
			わかる						
			できる						
			つながる						
言語領域		文化領域		グローバル社会領域					
◆年中行事に関する語彙を調べ、使用することができる。 ◆交流会参加者に中国語で日本や自分の家族の行事について話したり、相手のことについて聞いたり、積極的に対話できる。		◆中国の年中行事に関心を持ち、調べることができる。 ◆日中の年中行事を比較し、共通するもの、しないものを整理して、特徴をまとめることができる。 ◆共通する行事の名称の違い(清明節、端午節など)から、中国の年中行事に関する考え方について自分の考えをまとめることができる。 ◆日本や自分の地域、家族の行事をふりかえり、日本人が行事で大切にしていること(人生の節目、季節の変わり目、農業など)について考えることができる。 ★学習者のコミュニケーション能力レベルに応じて、日本語の助けを借りて行ってもよい。		◆中国の年中行事について調べ、日中の共通点、相違点についてまとめることができる。(情報活用) ◆分担を決め、カレンダーを作成することができる。(協働作業) ◆世界の行事の由来や祝い方から、信仰、願いや畏れ、価値観などとの関係について考えることができる。(知識理解) ★学習者のコミュニケーション能力レベルに応じて、日本語の助けを借りて行ってもよい。					
コミュニケーション能力指標	【行事】 2-a. 行事(年中行事、祝祭日、記念日、通過儀礼、イベントなど)の際に自分や自分の家族はいつ・何をするのか、口頭で紹介できる。 2-b. お祝いや記念日に何を贈るのか、それを選ぶ理由を含めて、簡単に言うことができる。 2-c. お祝いや記念日に贈るカード・メールに、簡単なメッセージを書くことができる。 2-d. お祝いや記念日に贈られたカードやメールの簡単なメッセージを、読んで理解できる。 2-e. お祝いや記念日に何をもらったか、誰からもらったか、その感想を含めて、簡単に言うことができる。 ★言語領域の「できる」の目標を設定する際に参照した指標。他の領域の目標設定とも連動している。 数字は【言語レベル-指標表番号】を表示している。								
II 評価									
学習を助けるための評価 (形成的評価)				目標達成度を測る全体的評価(総括的評価)					
◆行事カレンダーを作る。(必要な情報、独創性、表現の適切さ、表記の正しさ、写真やイラストの活用が効果的か等) ◆行事カレンダーを使って発表する。(発音の正確さ、そのプレゼントを贈る理由などの分かりやすさ)				◆交流会用のプレゼン資料を作る。(必要な情報、独創性、写真や資料) ◆発表のシュミレーションを行なう。(情報量、予想される質問に対する説明、資料の活用等) ◆交流会でプレゼン資料を見せながら発表する。(表現の適切さ、わかりやすさ、発表の態度)					

Ⅲ 学習活動		
プレコミュニケーション活動 (語彙・表現習得活動)	コミュニケーション活動 (学習シナリオ)	
◆日中の祝祭日の過ごし方について調べ、その違いについて話し合うことができる【2-a】 ◆行事カレンダーを作る。＜行事や贈り物を書きこむ・写真やイラストを入れる＞【2-b】 ◆行事カレンダーを使って発表する。(何故そのプレゼントをするのか)【2-b】 ◆お祝いのメッセージカードを作って送りあい、もらったメッセージカードの内容を発表する。【2-c,d】 ★【 】内は対応するコミュニケーション能力指標	<場面状況> X高校では、来年の夏に短期留学に行き、中国の交流校の高校生と「日中の年中行事や祝祭日を紹介しあう」交流会をすることになった。 <活動の流れ> 予め中国にどんな祝祭日があるのか、その日に何をするのか、日本とどう違うかなどについて調べておき、日本の国民祝日(特にお正月、端午の節、お月見など中国に元々あるものを中心に)についても、その由来、行事の様子などを両親や地域の人にインタビューしたり、ネットや資料で詳しく調べて、交流する時に話す話題をいくつか用意する。 クラスでそれぞれ調べたことをカードか模造紙に書くか、プレゼン用資料にして発表し、お互いに質問されそうな問題を想定して、交流会のシミュレーションをする。シミュレーションを通して、資料の完成度を高めるように工夫する。 完成しておいた資料をもとに交流会でプレゼンを行う。交流会の様子を写真かビデオで記録して、他の生徒に報告できるように小冊子かデジタル化した資料を作る。 ヒント ◆クラスで調べたことを整理して、教室かクラスページの掲示板に貼る。 ◆留学するや研修の予定がなければ、地域にある中国人か中華学校の生徒と交流する。	
<使用教材・教具> 模造紙、ビデオカメラ、パソコン		
表現と表現のポイント	語彙	文化・グローバル社会事象と事象のポイント
<表現> 怎么过年？/我们去神社参拜。/你们去哪儿参拜？/过年的时候吃什么？/中秋节的时候吃月饼吗？/过年的时候，父母给你压岁钱吗？/谁给你压岁钱了？/今年父母给你压岁钱了没？/南方过年的时候也吃饺子吗？/中国也有“母亲节”吗？/你想送母亲什么？/你们怎么过“情人节”？ <表現のポイント> “怎么”+動詞、“什么”“哪儿”“谁”を使った疑問文、“～的时候”、“也”、“给”+人+もの、“想”+動、“送”+人+目的語(双賓語)、“了”	祝祭日の言い方(“元旦・春节・端午节・中秋节”など)、お祝いの言葉(“恭喜、祝、快乐、愉快”など)、質問文を作る時使う言葉(“什么・几・哪天・吗・哪儿・谁”)、数字、期日についての言葉(“月、号、星期”など)、プレゼントに関する言葉(“花・压岁钱・书・手机链”など)、食事(“饺子・元宵・月饼・年糕・糯米丸子”など)	<事象> ◆行事や祝祭日の縁起担ぎやタブー ◆行事食 ◆国民祝日の比較(長さや回数) ◆行事の地域差 ◆行事の意味 <事象のポイント> ◆中国のおせち料理、日本の「倒福」など、縁起担ぎの品や作法について調べ、気持ちや願いの込め方について知る。 ◆行事や祝祭日と食文化の深い関係について知る。 ◆日中の国民祝日について、その由来と行事内容を知る。 ◆同じ行事でも地域差がある(日本:丸餅か角餅か。中国:餃子か餅か、など)ことについて考える。 ◆世界の行事の由来や祝い方から、信仰、願いや畏れ、価値観などとの関係について考える。
教室外(人・モノ・情報)との連繋		他教科の内容との連繋
両親、地域の人、中国の高校生		社会・国語